



転居された方は事務局（svcf-admin@svcf.jp）まで転居先をお知らせください

第133回院内集会報告

第133回院内集会は、1月26日、2024年度事業計画(案)立案に向けた会員の意見集約の場としてオンライン(Zoom)で開催されました。参加者は8名でした。

事前に安藤理事長から、以下の福島原発行動隊の状況が示されています。

【2024 年度事業(活動)計画に関する基本的事項】

- ・ 事業(活動)の裏付けとなる予算は、収入が継続的に落ち込み、2023 年度が約 39 万円となることから 2024 年度は 38 万円程度となろう。
- ・ 収入の落ち込みは、行動隊メンバー高齢化によるもので、新しい若い(60 歳以下)メンバーをえることが喫緊の課題である。
- ・ 支出は、2023 年度予算と同等の 185 万円とする。
- ・ 収支差(赤字)147 万円は、特定寄付金を充当してまかなう。
- ・ 収入の状況からして、公益法人である行動隊の公益 3 事業に加えるべき新たな事業は、差し当たり考え難い。
- ・ 2023 年末の院内集会でも語られたように、事業(活動)は体を動かすことだけではなく、廃炉事業に関する提言を行うなどアタマを働かせることにも力をいれねばならない。

【状況】

『東京電力は25日、福島第一原発2号機の熔融核燃料(デブリ)について、今年度中に予定していた取り出し開始を断念し、今年10月までの着手を目指すと発表した。～中略～**政府と東電が定める廃炉工程表「中長期ロードマップ」による取り出し開始時期は「2021年内」のまま改定されていない。東電の小野明副社長・福島第一廃炉推進カンパニー最高責任者は25日の記者会見で、「工程では2030年以降の本格的なデブリ取り出しを見込んでおり、2号機からの取り出し遅れは全体には影響しない」と説明。改定については「われわれがどうこう言うものではなく、国の方で判断されるものと考えている」とした。』**

出典:

[2024年1月26日福島民報「デブリ取り出し年度内断念 福島第一原発 東電、延期3度目 堆積物除去作業が難航」](#)

【意見】

<院内集会等>

- ・ 静岡県西部在住だが中部電力浜岡原発では原子炉2基が平常の廃炉中である。中部電力から平常の廃炉のプロセスについて情報を得て、福島第一原発の廃炉と比較・考証することをやっていきたい。
- ・ 例月更新のイチエフウォッチャーレポートを継続していく。
- ・ 院内集会については、これまで通り、年1回は

資源エネルギー庁・廃炉等支援機構・東京電力を講師に、福島第一原発の廃炉の進捗状況を確認していきたい。

- ・ 廃炉等支援機構等は[2022年9月の第117回院内集会\(オンライン～東京電力福島第一原発廃炉事業の現況\)](#)から「PCV等の経年劣化を正面から認め、イチエフの状況、工法・工程等について、さまざまな可能性を排除しないというスタンス」に変わりつつある。一方で内閣府原子力災害対策本部原子力被災者生活支援チームは、[2022年1月の第](#)

[110 回院内集会「原発災害被災者の生活回復をどのように実現するか」](#)では、避難指示解除など国の復興施策の前提となる現在の福島第一原発自体が抱えるリスクについて、「異なる担当部署が対応しており、原子力被災者生活支援チームとしてはリスクを評価する立場にない。原子炉は冷温停止状態に達し、この担当部局により、ステップ2の完了により原子力発電所の安全性が確認されたとされたこと(注:2011年12月)を踏まえて、オフサイト(福島第一原子力発電所外)の取り組みを進めている」としている。

内閣府原子力災害対策本部原子力被災者生活支援チームが、現在の福島第一原発自体が抱えるリスクについて、せめて2022年の廃炉等支援機構の認識レベルまで更新するような働きかけはしていきたい。

- ・いくら断られ続けても東京電力に廃炉作業への行動隊の参入を要請し続けることが必要だ。
- ・東京電力に、福島第一原発構内で米等を栽培し、線量等を公表していくような働きかけをしたい。

<行動隊の高齢化対策>

- ・YouTubeなどSNS媒体を駆使して、画像・映像

で若い世代に行動隊の活動への参加を呼び掛けていきたい。

- ・リーフレットの更新も必要だ。
- ・行動隊は広報が貧弱だ。言いつ放しでは伝わらない。ホームページの改訂も必要だ。
←SNS媒体を駆使するためには若い世代が必要というジレンマもある。

<原子力工学人材の払底対策>

- ・福島第一原発に限らず原子炉の廃炉にかかわる若い世代の人材が払底していることも、先の東京電力のロードマップの改訂についての当事者意識を欠いた発言の背景にあるのではないか。
- ・廃炉まで視野に入れてこなかった原子力工学は、大学の現場で学生に人気がない。
- ・廃炉にかかわる若い世代の報酬を大幅に引き上げることが必要だ
- ・まず、国内の大学の原子力工学の講座の実情(教える側・教わる側双方)を調べるところから始めたい。

←このような課題・取り組みに向けて、行動隊が具体的に何をできるかさらに会員の意見を集約し、2024年度の「活動計画(案)」を練り上げていく。

<新しい事業/活動 誰がいつどのように>

安藤 博

福島原発行動隊の活動をより広げ積極的なものとするを求めて、昨年末と今年初めの院内集会で2回続けて「2024年度事業(活動)計画」をテーマに行動隊メンバーが話し合った。しかし、団体の活動目的である「原発事故の早期収束」に直結する案はあまり出て来なかった。本誌掲載の別稿「第133回院内集会報告」に見る通り、集会での提案の多くは「新たな若い隊員を獲得するためはどうすればよいか」「広報を充実させるための動画(YouTube)活用」など、団体活動のあり方を改善する策に向けられていた。「新しい活動を考えても、実際にその活動を進める要員がいなければどうにもならない、われわれが何をやっているかが広く知られていなければ新しいメンバーを得る事などできるわけがない」、要するに新しい事業(活動)をしようというなら、先ず足下を固めろということだ。それが行動隊の現状である。

わずかに、「廃炉を進めるための人材確保/不足対策」という原発事故収束に向けて喫緊の課題に関わる提案が院内集会の討議の中で出ている。

こうした各種の提案をただの言いつぱなしでなく具体化していくため、【誰が、いつ、どのように】という討議を進め、新年度の事業として明確に打ち出すようにしていきたい。

『福島原発行動隊 10 年誌』製本版

(2023年12月1日刊行)を頒布しています。ご希望の方はお名前・住所を

〒101-0063 千代田区淡路町 1-21-7 清和ビル 1

階 A 室公益社団法人福島原発行動隊

または杉山隆保

takayasusugi8888@gmail.com

までご連絡ください。



絵解き『福島原発行動隊10年誌』ウェブ版の開き方

製本版の刊行に加え、『福島原発行動隊10年誌』ウェブ版を行動隊のホームページにアップしてあります。

開き方が分からないという声が寄せられたので画像中心で説明します。

1、 まず行動隊ホームページを開きましょう。

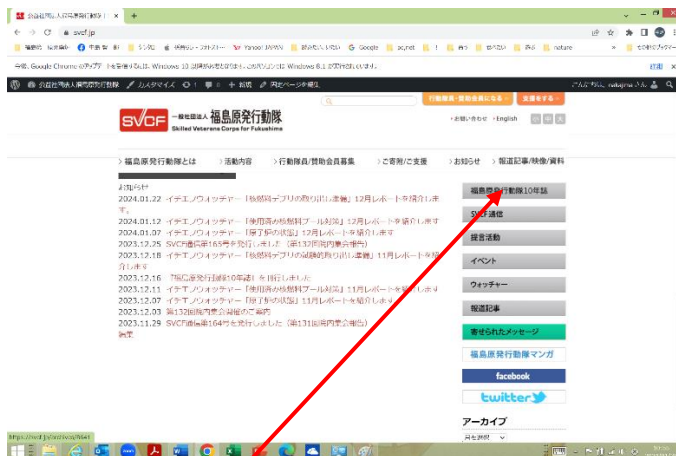
下の行動隊ホームページURLをクリックしてください。

<https://svcf.jp/>

右のQRコードをスマホなどのQRコードリーダーで読み取っても開けます。



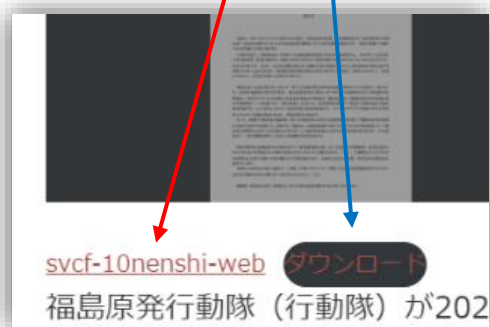
2、 左の画面が現れたら、上にスクロール（画面を移動）すると右の画面になります。



3、 上右の画面の右側に並んだ灰色のボタンの一番上「福島原発行動隊10年誌」をクリックしてください。



- 4、 前ページ左の画面が現れたら、上にスクロール（画面を移動）すると右の画面（拡大）になります。
- 5、 画像の下のでこのところをクリックしてしばらく待つと『福島原発行動隊10年誌』ウェブ版が開きます。ダウンロードは[こちら](#)から。ゆっくりお読みください。



..... 2月の予定

<院内集会>

第134回院内集会

日時：2月16日（金）12:00

会場：参議院議員会館会議室（会議室番号については決定次第メール配信するとともにホームページに掲載します。オンライン(Zoom)でも繋がります）

テーマ：「あれから13年。福島のと石川県志賀原発取材報告」

講師：青木美希（ジャーナリスト、『なぜ日本は原発を止められないのか?』文春新書著者）

<SVCF通信167号>

発行：2月20日（火）

<連絡会議> 淡路町事務所（右地図参照）およびonline。いずれも10：30から

2月2日（金）、9日（金）、16日（金）、
23日（金）

